

事務事業評価表

○基礎情報

課名		社会教育課鶴嶺公民館		作成責任者		常勤職員		常勤職員以外		総従事者		時間外勤務時間	
施策目標	5	自分を見つめ、地域を見つめる社会教育と文化財保護を推進する		三浦 悦子		管理職	左記以外	再任用短時間	臨時職員	非常勤嘱託職員	総人工	総時間	一人あたり月平均
						1 人	2 人	1 人	3 人	4 人	6.69 人	41 時間	1.7 時間

1 施策指標と実績(Do)

施策指標名	4次実施計画の現状値	目標値(R2年度)	実績値		
			H28年度	H29年度	H30年度
社会教育事業・イベントの参加者数	48,284人	50,002人	48,282人	42,918人	49,636人
文化財の指定件数	43件	49件			
0	0.0%	0			

(施策のねらい)

1	家庭教育・幼児期の教育の支援
2	地域の教育力の向上
3	効果的な社会教育の推進
4	地域の学習拠点としての公民館の充実
5	文化財の保護・活用
6	0

(評価の見方) S 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果があがった A 事業の指標は達成できなかったが、成果はあがった B 事業の指標を概ね(80%)達成し、成果は今後見込める
C 事業の指標は達成できなかったが、成果は今後見込める D 事業の指標を概ね達成したが、成果は見込めない E 事業の指標を達成できず、成果も見込めない
Z 未着手事業(計画していたが未実施に終わった) 実績なし 事業実施の体制は整えていたが、実績がなかった(実施計画期間中で当該年度は実施予定のないものを含む)

2 政策的事業の実績(平成30年度)

事務事業の取組結果と成果(効果) (Plan / Do)														Check		Action	
No.	事務事業 (第4次実施計画)	施策	従事者数	会計区分	H29予算(円) H29決算(円)	H30予算(円) H30決算(円)	何・誰に対して (対象)	どう働きかけた結果 (手段・方法)	どうなったか(生ま れた成果・効果)	事務事業の指標	H30目標値	H30実績値 (下段はH28実績)	評価	取組時間	事務改善	休・廃止	
1	公民館利用者活動支援事業(公民館)	4	1.68	一般	8,318,000 8,286,031	8,475,000 8,260,130	利用件数は減少傾向にあるが、利用者の意見を幅広く聴きながら、安全で利用しやすい施設運営を行うことができた。また、研修等を継続的に実施し、職員の資質向上に努めた。			利用件数(年間)	3,000件	2,845件 (2,933件)	S	変動なし	●		
2	社会的要請課題をテーマとした事業(公民館)	2	0.90	一般	291,000 290,700	280,000 240,700	環境、福祉、少子・高齢化、情報化等の社会的要請課題をテーマとした事業の開催など多様な事業を展開し、市民の学習活動の活性化を支援した。			事業数	11事業	16事業 715人 (16事業 571人)	S	変動なし			
3	子ども事業(公民館)	1	0.53	一般	247,000 246,600	210,000 183,000	ボランティア団体等と連携を図り、子どもや親子を対象に体験型の学習を実施することで、地域でのふれあいや仲間作りを促進し、子ども達の居場所づくりの創出に寄与した。			事業数	10事業	11事業 1,077人 (11事業 938人)	S	変動なし			
4	家庭教育支援関連事業(公民館)	1	0.44	一般	196,000 196,000	309,000 308,500	核家族化が進展する中で、子育ての悩みや不安を持つ保護者が気軽に参加できる事業を地域の関係団体等と連携しながら継続的に展開し、家庭教育の支援を図った。			事業数	4事業	6事業 391人 (6事業 579人)	S	変動なし			

[illegible]

3 実施計画事業(政策的事業(政策的事業のない課はいは一般管理事務等))の総括評価

人工・事務事業費・事務事業指標達成度の結果にかかる分析(Check) / 今後の展望(Action)	
<p>〈5公民館としての取り組みと成果〉</p> <p>「春の市民まつり」や「しろやまフェスタ」開催時に「公民館ブース」を設置するとともに、11月にイオン茅ヶ崎中央店にて、公民館活動を周知する展示や、主催事業をワークショップ形式で実施する「公民館フェスタ」を開催した(参加者数延べ400人以上)。また、「市民便利帳ちがさき生活ガイド」に加え「茅ヶ崎市高齢者ガイド」にも公民館ページを新たに設けることで、多世代へ公民館のPRに努めた。さらに、ホノルルウィーク展、環境展、食育展等の館内展示や、高齢福祉介護課(フレイルチェック、わたしの覚え書き書き方講座等)や健康増進課(乳幼児健康相談)の実施など、他課との連携事業も行い、一定の成果をあげたと考える。さらに、インターンシップ生を受け入れ、公民館事業に携わってもらいながら、若者の視点から、若い世代の方々に公民館を利用してもらうために必要なことについて考えるきっかけづくりとした。このように5館が連携し、様々な機会を捉えて、日頃の公民館活動をPRを行っているが、依然として公民館を知らない、利用したことがない市民も多くいることも事実である、こうした実情を踏まえ、引き続き他課と連携した事業を継続的に実施するとともに、あわせて公民館のPR活動を職員一丸となって積極的に実施することで、公民館の充実を図っていきたい。</p> <p>〈鶴嶺公民館の取り組みと成果〉</p> <p>政策的事業9事業については、目標値をすべて上回っていることから、すべて「S」評価とした。しかし、公民館の利用件数は29年度と比較して約90件も減少、利用人員も約3,300人も減少している。通常の広報媒体に加え、近隣の自治会、小・中学校や地域集会所へ「講座情報」を継続的に配架し、多くの利用者に利用していただけるよう努めていく必要がある。</p> <p>一方で、鶴嶺公民館では、公民館外の活動が増加傾向にある。30年度は、歴史散策や自然観察などの公民館を利用しない講座を11講座も実施しており、合計で約200人に参加していただいた。募集開始後30分程度で満杯となる講座や、募集定員の3倍以上の応募がある講座も多数存在することから、地域住民のニーズは的確に捉えることができているものと考え。</p> <p>また、子ども事業でも、地域の3小学校のご協力を得て、生徒一人一人にチラシを配付していただいている効果が大きく、事業実施日には、朝8時過ぎから、子どもたちが入り口に並んで待ってくださる状況となっている。今後も、地域や小学校にご協力いただきながら、公民館運営審議会の委員の皆様のご意見や、利用者懇談会での利用者のご意見を踏まえ、地域のニーズに合った事業を実施していく。</p> <p>なお、職員の時間外勤務については、一人あたりで換算すると月平均1.7時間であり、前年度と比較して、一人あたりの月平均で約1時間減少させることができた。朝礼等による業務進捗状況の共有に努め、館内の協力体制と事務の効率化に心がけ、職員のワークライフバランスを図っていきたい。</p>	

4 Actionにチェックの入った今年度「事務改善」を行う事業

No.	事務事業(事業がない場合は-)	事務改善の内容
1	公民館利用者活動支援事業	5館で契約する事務の契約方法を精査し、経費削減について引き続き検討する。
6	学習成果の還元事業	公民館まつりの業務内容について見直しを図り、経費の削減を図る。

5 Actionにチェックの入った今年度「休・廃止」を検討する事業

No.	事務事業(検討事業がない場合は-)	休・廃止検討の理由(1事業も検討できない場合はその理由を記載)
-	-	個々の担当業務の進捗状況等を確認する中で、全事業の見直しを検討した。その結果、第4次実施計画作成の際に適切に事業の統合等を図ったことから、現時点での事業の休・廃止は困難である。しかしながら、引き続き5館連携して改善を行うことで効率的な事業運営を図っていきたい。
-	-	-

6 働かたの見直しにおける取り組み結果(28~30年度の3か年の取り組みの結果、得られた生産性向上などの成果)

取り組みの結果
<p>・公民館で共通する業務の契約並びに期間等の見直しを行い、経費削減と契約等に係る職員の事務の効率化を図った。(清掃業務委託及び警備委託の長期継続契約化、複写機賃貸借契約の統合)</p> <p>・平成30年度は、職員数が2.9人と、28~30年度の中で最も多くなったが、うち1人は午前中のみの勤務であったため、朝礼等でスケジュール確認や業務の進捗状況の確認を行い、遅れが見られる職員にはすぐに他の職員がサポートすることで、時間外の削減を図ることができた。</p> <p>・限られた職員体制の中での交代勤務のため、依然として年次休暇取得状況は低い。そのため事務分担等の見直しを実施し、業務効率の向上を図る中で、引き続き年次休暇取得率の向上に努めたい。</p>